

1

3年間の計画

|                   | 目標                         | 平成29年度(2017年度)   | 平成30年度(2018年度)  | 平成31年度(2019年度)  |
|-------------------|----------------------------|--|---|---|
| 保幼小中連携<br>中学校ブロック | 点から面をつなげるブロック連携            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携担当者のほかに連携が必要な担当を検討する。</li> <li>・無理のない範囲で月1回の連携担当者会を計画、実行する。</li> <li>・合同授業研で、連携カリキュラムを使う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校ブロックとしての連携組織をつくる。</li> <li>・連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。</li> <li>・連携担当者以外の担当者会を1回以上行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種担当者会を定期的に行う。</li> <li>・連携カリキュラムを活用した取り組みを実施する。</li> </ul>   |
| 確かな学力の育成          | 学びに向かう力の育成                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動において、興味や関心を持つことができるような取組みの検討、実践。</li> <li>・モジュール学習の計画立案。</li> <li>・ICT 機器を効果的に活用し、興味関心を引き出し、子どもたちの学習意欲向上を図る。</li> <li>・算数の授業では問題解決型学習の授業づくりの具体化。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動において、表現し、伝え合うための技能の習得。</li> <li>・モジュール学習の推進</li> <li>・算数の授業では問題解決型学習を通して、課題を見つけ、解決しようとする態度の育成。</li> <li>・ICT 機器を活用しながら「主体的・対話的な学び」の授業づくりの推進。</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動において、目的や場面に応じて、表現し伝え合うコミュニケーション力の育成。</li> <li>・モジュール学習の定着</li> <li>・算数の授業では問題解決型学習の授業を通して、課題を見つけ、解決しようとする態度の育成。</li> <li>・ICT 機器を活用しながら全教科を通じて「主体的・対話的な学び」の授業づくりの推進。</li> </ul>    |
| 豊かな人間性を育む         | 一人ひとりを大切に、共に学び、支えあう集団を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究、実践の記録、交流、教職員の研修などを通して、全教職員の統一、実践力の向上を図る。</li> <li>・困り感のある子、支援を要する子に視点をあてた集団づくりを進める。</li> <li>・「畑田小だより」「畑田小アンケート結果」や学年、学級通信で、家庭や地域とともに児童の豊かな人間性を育むよう啓発を進める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が一致協力した児童指導体制のもと、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援を行う。</li> <li>・男女共生教育を柱にすえ、困り感のある子、支援を要する子に視点をあて、違いを認め合う集団づくりを進める。</li> <li>・学校、地域、家庭が連携を図り、「正しく判断し、みんなで助け合い、学び合う」子どもの育成の啓発を進める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員の実践力の向上を目指し、人権教育・道徳教育についての研究を進める。</li> <li>・一人ひとりの違いを認め合い、すべての子どもの人権が尊重され、共に学び、共に育つことができる集団づくりを進める。</li> <li>・よりよい社会を育むことを自ら創造していく子どもの育成を念頭に、学校、家庭、地域が一体となった教育活動の啓発を進める。</li> </ul> |
| 健康・体力の増進          | 「運動が好き」「授業が楽しい」と思える子どもの育成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・立命館大学と連携した「授業プログラム」のもと、授業改善や授業力向上を推進し、子どもの体力向上、運動への意識向上を図る。</li> <li>・運動の楽しさや喜びを味わうための授業、取組みを進める。</li> <li>・健康や安全についての興味関心を持つ態度の育成。</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業プログラム」の検証を行い、より良い授業づくりについての研究を推進する。</li> <li>・運動や健康について、友だちとの対話を通じて、課題の解決を目指す態度の育成。</li> <li>・生涯にわたって、健康・体力の増進に興味・関心を持つ態度の育成。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの研究をもとに、児童の実態に応じた、系統性のある「畑田小体育カリキュラム」を作成する。</li> <li>・運動や健康についての課題を自ら発見し、解決に向けて、思考・判断し、伝える力の育成。</li> <li>・生涯にわたって、健康・体力の増進に意欲的に取り組む態度の育成。</li> </ul>                                |
| 支援教育の充実           |                            |  |   |   |

## 2 今年度の結果と取組みについて

### (1) 全国学力・学習状況調査

#### ○●国語●○

##### 国語A

###### (領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと  
良好な結果であった
- ② 書くこと  
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと  
概ね良好な結果であった
- ④ 言語事項  
良好な結果であった

###### (問題形式)

- ① 選択式  
概ね良好な結果であった
- ② 短答式  
良好な結果であった
- ③ 記述式  
(該当の問題なし)

###### (無解答率)

概ね良好な結果であった

###### (その他)

- ・漢字やことわざなど、言語事項に関しては概ね良好な結果であった。
- ・手紙の構成について問われる設問についての正答率が低かった。

##### 国語B

###### (領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと  
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと  
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと  
概ね良好な結果であった
- ④ 言語事項  
(該当の問題なし)

###### (問題形式)

- ① 選択式  
概ね良好な結果であった
- ② 短答式  
大変良好な結果であった
- ③ 記述式  
概ね良好な結果であった

###### (無解答率)

概ね良好な結果であった

###### (その他)

- ・問いに関して文章内で書かれている言葉を使って、答える設問については正答率が高かった。
- ・自分の考えを書いたり、条件に合わせて要約することに課題が残る。

##### 分析

- ・全体的に良好な結果が多かった。
- ・正しい漢字を選ぶことができている。(読みは○)
- ・ことわざについての問題の正答率が高い。→言葉・漢字の理解○
- ・同音異義語に対して正答率が低い。
- ・記述問題に無解答の児童が多い。特に自分で考え、まとめる問題に正答率が低く、無解答の児童が多かった。→しっかり文章を読み、自分の言葉で書く活動を多く取り入れ、記述問題に慣れることが必要

# ○●算数●○

## 算数A

(領域ごと)

①数と計算

良好な結果であった

②量と測定

良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

③記述式

(該当の問題なし)

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・四則計算など計算領域の正答率は高かった。
- ・計算の仕方について問われる設問の正答率が低く、課題が見られた。

## 算数B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

やや課題が残る結果であった

③図形

大変良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・図形関係の問題は、大変良好な結果であった。
- ・数量関係のきまりや、求め方を自分で考え、書くことについて課題が見られた。

## 分析

- ・全体的に良好な結果が多かった。
- ・数と計算については良好であり、低位層の児童の向上が見られる。
- ・図や表を読み取り、自分の考えを表現する力に課題がある。
- ・解答を求める方法を言葉や式を使って記述する力をつけていく必要がある。
- ・グラフから資料の特徴や、傾向を読み取ることや、示されている事柄とグラフを関連付けることに課題がある。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- ・国語、算数ともに良好な結果だった。
- ・正答率は昨年度より増加した。
- ・国語 B の正答率が昨年度より増加した。
- ・無解答率は比較的低いですが、国語、算数ともに、記述式の問題において高い。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力低位層の上昇がみられ、無解答率が下がった。
- ・昨年度と比較すると、低位層の児童が減少し、高位層の児童が増加した。
- ・低位層の児童の学力保障についての取組みを推進していく。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

#### 〈各クラス、学年での取組み〉

#### 国語

- ・記述力を伸ばすために、自分の考えを書く、まとめる学習活動を取り入れる。
- ・朝の読書活動の時間を継続し、読み取る力を伸ばしていく。
- ・朝の学習以外にも、読書活動を充実させ、じっくり落ち着いて文脈を理解する力を伸ばしていく。
- ・自分の考えを発表し、交流する時間を設定し、話す力を伸ばしていく。
- ・読書活動と並行して、多くの文章に触れる活動を意図的に増やし、読解力と漢字を読む力を伸ばしていく。

#### 算数

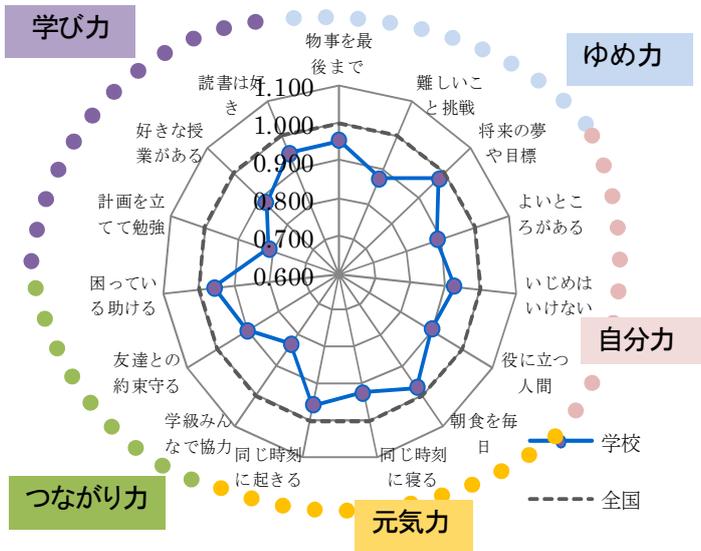
- ・問題解決型学習に力を入れ、自分で考え、言葉や式で説明できる力を伸ばしていく。
- ・課題の導入を工夫し、児童の興味関心、学習意欲を持つことができるようにする。
- ・表やグラフなどの問題に多く触れ、苦手意識を減らすようにしていく。
- ・朝の算数タイムを継続して、基本的な計算力の向上を進める。

#### 〈全校での取組み〉

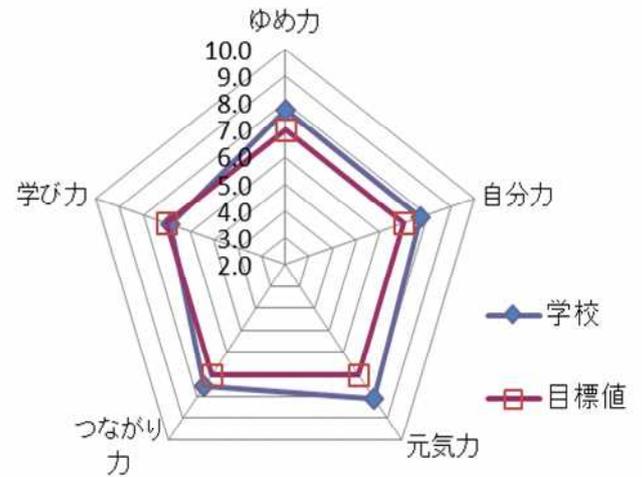
- ・朝学習の時間を使って、基礎基本の力をつける。特に短時間に集中できる計算・漢字・読みを中心に積み重ねていく。
- ・高学年は、委員会・クラブのない6時間目を利用し、力試しプリントや新聞記事を使ったワークシートに書いたり、まとめたりすることで、本校の課題である「算数の数量関係の力」や、「国語・算数の書くことの力」を伸ばしていく。
- ・授業のスタンダードをつくり、全校で取り組む。
- ・教科の理解度を見る到達度チェックを行い、取組みに生かしている。
- ・1時間の授業の振り返りとして、学んだことや、気づいたことをまとめて書くことで書く力や考える力を伸ばしていく。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



## 分析

- ・全体的に低いが、その中でも、将来の夢や目標がある児童は昨年度よりも大幅に伸びた。
- ・「読書は好き」についても昨年度よりも伸びている。
- ・朝食や就寝時刻などの、基本的な生活習慣は良好であるが、テレビやゲームの時間が長い児童もいるのが課題である。
- ・学力についての成果は出ているが、「計画を立てて勉強する」や「好きな授業がある」の項目のポイントが低く、学びへの意欲を高めることが課題である。
- ・つながり力では、「困っている人を助ける」と答えた児童は多いが、「学級みんなで協力する」のポイントが低い。
- ・「物事を最後までする」と答えた児童は多いが、「難しいことに挑戦する」のポイントは低く、自分でじっくり考え、解決しようとする意欲が低い。
- ・いじめに関する質問について、「いじめはあってはならない」とは思わない児童もいて、いじめに対する認識が弱い。

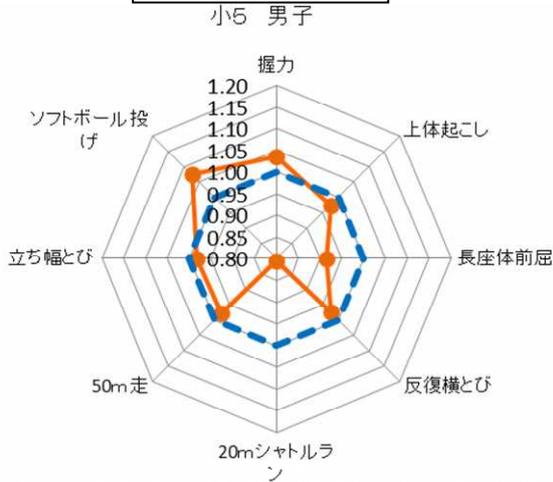
## 取組み

- ・意欲をもって、自らどのように解決していくか、見通しをもって学べるような課題の提示を工夫する。
- ・計画的に取り組むことができる家庭学習を提示していく。
- ・集団づくりを強化し、共に学び、共に育つという意識の向上を図る。
- ・達成感や満足感を共有し、お互いを認め合い、自己有用感・自己肯定感を感じることができるような取組みを設定する。
- ・道徳、総合的な学習の時間を活用し、他者と協力し、尊重する心の育成を進める。
- ・将来の目標に向けて、何事にも挑戦し、最後までやり遂げようとする力を育成するために、キャリア教育の充実を図る。
- ・ゲストティーチャーや人権講演会などを通じて、多様な生き方や価値観に触れる機会を設ける。
- ・異年齢集団と関わる活動を設定し、相手を思いやる気持ちを育む。
- ・生活習慣の改善に向けて、児童と保護者に継続して啓発に努める。

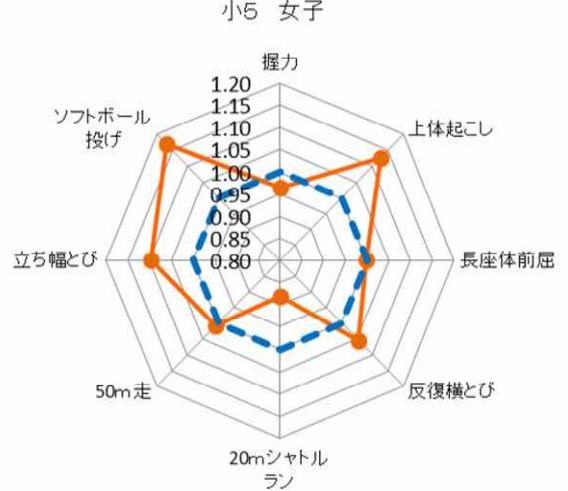
## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○

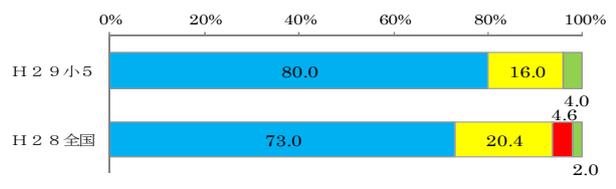
男子 (小5)



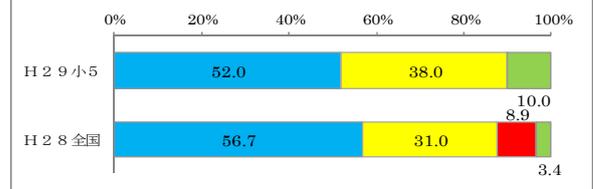
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

### 分析

- ・運動やスポーツが好きで、体育の授業が楽しいと答える児童が過半数を超えていた。
- ・運動やスポーツを大切だと思う児童が男女ともに60パーセントを超えていた。
- ・1日の運動にかける時間が長く、運動部やスポーツクラブに入っている児童が全国平均よりも多かった。
- ・運動に関しては好意的な児童が多いと考えられるが、「体力に自信がありますか。」の問いには「ない」と答える児童が約半数いた。
- ・テレビ・テレビゲームにかける時間が全国平均よりも長く、3時間以上と答える児童が20パーセントを超えていた。
- ・体力テストの総合評価は全国平均より、やや低かった。
- ・男女別で見ると、男子は3学年とも全国平均を下回り、女子は5、6年生が全国平均より上回った。
- ・種目別にみると、男子の課題は長座体前屈、シャトルランである。
- ・女子の課題は握力、長座体前屈、シャトルランである。
- ・学校全体の課題は長座体前屈、シャトルランである。

### 取組み

- ・授業内容を見直し、児童が興味関心を持ち、意欲的に取り組むことができるような授業づくりに努める。
- ・柔軟性と持久力の向上を図るための運動を、授業の中に意図的に取り入れる。
- ・学校全体で体力向上を目指す取組みを検討、実施する。
- ・立命館大学と連携した「体育授業パワーアッププログラム」や「短時間運動プログラム」を実施し、柔軟性・持久力の向上を図る。
- ・体育授業スタンダード、系統性のあるカリキュラムを作成し、統一された一貫性のある体育授業を進める。
- ・生活面に関しては、児童や保護者への啓発に努める。